敗戰の六週間・米英の苦悶

"米國賴むに足らず"

リオ會議の歩調も亂れ勝ち

敗戰米英にとつて悪夢にも似た六週間が過ぎた、敗けに敗けて良の息な米英兩國に斷末魔の邸を知らせるシンガポール陥落もさう手間暇かゝることではない「お馴染の飛弾」チャーチル會談」からはデマ放送の醜さへ飽きたやうだ、さて大西洋を潜水艦に乗つて虎の尾を踏む思ひで歸英したと傳へられるチャーチルを待つロンドンでは、敗將ボパムを大馬鹿野郎と罵倒した論調を斬る口喧しい議員連中や"敗戰の責任を負つて内閣大改造"などとデモクラツトらしくが鳴り立てゝゐる國民が手貝呼ひかぬばかしなのだ、一方北部氏は十五日から開かれたリオデジャネイロにおける汎米廿一ケ國外相會議に片腕と頼むウエルズ國務次官を送つて大東亞戰敗戰を挽回せんとしてゐる、正に敗戰米英は再起出來ぬのだ、ではシンガポール陥落近しの聲に耳をふさいで仲よく泣き面を並べてゐる米英兩國内の喰々囂々ぶりとはどんなものか外電に拾つてみよう

ブエノスアイレス特電【十七日發】 世界一海軍國アメリカは日米開戰ともならば大空軍を以て一ケ月を出でず日本を屈伏せしめるであらう――と豪語したアメリカであり、これを肚の底から信じ込んだ米國民たちではあつたが十二月八日といふ"暗い日曜日"の味を知らされて以來、香港失陥、マニラ陥落、グアム、ウエーキを陸軍に攻陥され揚句、シンガポールの危機を連日聞かされるなど漸く

敗戰國民 の悲哀をほろ苦く噛みしめ出した、なかでも玩具箱を、ひつくり返したほどに騒ぎ立ててゐるのはニユーヨーク市民たちだ、開戰以來六週間といふもの連戰連敗の悲報に加へて連日身に沁みるやうな寒氣と雪とに見舞はれ日に日に暗澹して行く物價や早くも影を潜め出した生活物資の買漁などで漸く戰爭の重味を痛感して來たらしい

(寫眞は泣き面のルーズヴエルト(上)とチャーチル)

高潮に達した諸情報を綜合するとこのごろは次の通りであるが、ニユーヨーク兒の今日この頃、敗戰ニユーヨーク兒の今日このごろでもまづ敗戰の責任者追求論が盛に行はれ一流の軍事評論家、新聞記者たちは筆を揃へて政府攻撃、海軍首腦部のだらし無さを書立て、今更のやうに"日本の實力を過少評價するな"とか"米國の抱懷する對日長期作戰は米國の滅亡を早めるものである"などと警告を発つてゐた戰爭物資の不足を裁け出した、自由の女神の建前からも民心を尊重するアメリカでは言論の統制取締も徹底ならず辛うじてデマ放送により敗戰の實相をひた隠しにしてゐる、また十五日から開かれた汎米外相リオ會議も開會前から暗雲が低迷し殊にアルゼンチン、チリーなど南米の曲者の果は頗る期待薄だ

懐柔抱き こゝみに狂奔する有様で會議の成米國の肚としてはこのリオ會議で汎米連帶責任制度を作りあげ東亞で失つた戰爭物資の買付けを畫策してゐるらしいのだが、窮すれば鈍すの譬へ通りこの計畫が見透かされてゐるばかりか"米國の實力頼むに足らず"の聲が足許から立つて強硬に通商斷絶に中立の機運が醸成されつゝある實情だ、また開戰以來ニユーヨーク市では市民防衛局を組織、ラ・ガーデイア市長に据ゑて防空對策に汲々としてゐるが市民の理解に反しその組織は支離滅裂である、防衛局ではパンフレツトを發行したがそれら何れもが手ぬるいだけで"書間空襲警報が發せられたなら煙草を吸ふな"といつた次第で市民を徒らに面喰はせてゐる

さらに上意下達が徹底せず當局との間に命令權の

縄張り爭 ひを生じてゐるニユーヨーク市吏員の魅力であつた一週五日制度は開戰と同時に廢止され、戰爭終了まで七日制度を採用、中休年限に達しながら働いてゐた老朽消防夫たちは勞働強制だと大不滿で退職者が續出して來た、このため市當局では補助として婦人奉仕隊を大々的に募集したが義勇制であるので來てゐるのでヤンキーガールのお氣に召さず最近までにやつと四百二人の應募者があつただけだといふ

"揉める"敗戰の責任"

内部から分裂の英國

ストツクホルム特電【十七日發】 緒戰において香港を失つた英國はマレー、ビルマを對日據點として頽勢挽回を呼號して來たが獅子島危機に陥るに及んで奪回の希望を絶たれ雪に閉ざされた英本土は暗澹の色が極めて濃い、かくて輿論の矛先はチャーチル内閣改造必至の聲にひきずられて來た、國交國では挙國的内閣待望主が取沙汰されてゐる、ロンドン紙は内閣改造前夜を次の通り報じてゐる、イヴニングスタンダード紙は十六日附朝刊社説で「チャーチルはワシントンより歸着後直ちに

内閣改造 に着手すべきである」と主張してゐる、同紙によればチャーチルは東亞における全面的敗戰の責任をとるため及びワシントン會談の結果として内閣改造を斷行すべきである、このため敗戰の最高責任たるマーゲツソン陸相サー・エドワードグリツク陸軍省次官、モイン植民相、クロフト同次官は即時罷免のはか海相、貿易相の交迭、省の統合などを必要とする

要するになさるべき内閣の改造は單なる首のすげ替へに止まるべきでなく大英帝國の誇りを保持する有力且つ新人から成る強力戰時内閣であらねばならないいづれにせよチャーチルが敗戰宰相として國民の信任を裏切つたことは萬死に値するものであり彼の如き國民の聲望を失つた宰相を今後も指導者に仰ぐとすれば、國民の不滿はその極に達するであらうと論じてゐるこのほか政府攻撃の筆陣はまことに堂々たるもので敗戰責任者の

追求論は 日に増し盛となり、一、シンガポールの防禦態制一、増援部隊の輸送問題一、何故に戰術を用ひないか一、防空設備の全面的不完全指摘などの諸問題を捉へて耳を掩ふばかりの政府彈劾、非難囂々たるものがある

英の敗戰を素ツ破抜く

米人記者放逐

【リスボン十七日同盟】信ずべき筋の情報によればシンガポールに特派されて活躍中であつた二名の米人記者がマレーにおける英の不完全なる防備と日本軍の猛攻ぶりを事實ありのまゝに報道したゝめ英軍當局の忌諱にふれ最近シンガポールより退去を命ぜられたことに端を發して米英間に紛爭を惹起しみにくい内輪喧嘩を暴露してゐるといはれる

物凄い渦と海蛇に膽を冷やす三時間

病院船 哈爾賓丸遭難記

【〇〇基地十八日同盟】敗戰に血迷へる敵はさる十日不法にもわが病院船哈爾賓丸を攻撃撃沈せしむるの非人道行爲を敢てなしその暴戻なる行爲は人類の敵として全世界非難の的となつてゐるが同船に乗組み當時の遭難狀況を具さに體驗せる杉山一男兵長(愛知縣西春日井郡)は十八日〇〇基地に歸還、當時の模樣を左の如く語つた

その朝自分はデツキにもたれて向け行く南支那海の穏かな海原を眺めてゐた、〇〇沖〇〇浬の附近に差掛つたとき突然三百メートル餘前方から白い浪の塊がむくむくと盛上つたかと思ふ間もなくその白波は三條に分れ大きなカーブを作つて本船目がけて非常な速力で迫つて來る『魚雷だ』と瞬間さう思つて船内に急報すべくタラツプを踏んだ途端、轟然たる音響とゝもに魚雷は船尾右舷に命中し船は横倒しになるほど傾きつゝ船首を高く船尾から沈みかけた、時を移さず船員は患者の救助作業にかゝり〇〇分にして最初のボートに收容することが出來た、そのとき無電局長は『アンテナが切れて連絡がつかぬ』と大聲で無電室から飛出して來た、自分はごつた返す中を押分けて船室に踊り重要書類の入つた鞄と靴鞄をかゝへて再びデツキに駈け上つた、最後の救命ボートは船側を離れてゐた、殘されたボートに全部が乘込んでおろさうとしたが途中で何かにひつかゝつて海面に達せず、大木はロープを切らうとしたがなかなか切れない刻々本船が沈みこれとゝもにボートも海面について安心したのも瞬時ボートも本船にひつぱられぐんぐんと沈んで行き、私たちはつひに波浪のなかに投出されてしまつた、幾度か捲き込まれさうになり乍らもやうやく渦を脱して救命箱につかまつたがその時自分の命にも代へられない重要書類を本船の中に忘れてゐることに氣付きて探してみたが無い、重要書類を手にするまでは死ねないと思つた瞬間、自分は急に落着きが出來た、ふと傍らに漂つてゐる木片と一緒に雜嚢が浮游してゐるのを發見、手にとつてみると正しくそれだ、本船の煙突が『への字』になり不氣味な音をたてゝめりめりと崩れてゆく、船の周圍には突然物凄い渦が湧き始めた、本船沈沒の殺那である『早く逃げろ』と叫んでゐるものがある、必死になつて聲のする方へ泳ぎ着いてみると無電局長が救命箱に捉つて私を待つてゐた 局長も船室に引返し重要書類を見つけて引上げて來たところだつた ときどき海蛇の群が眼の前に現れたりした、膽を冷やす物凄い渦にもまれて漂つてゐるうち救命ボートに發見されやうやく收容されたが、ボートは一ぱいで腹匍ひになり重り合つてゐるのでオールも使へずやむなく服を脱いで即製の帆を張つて海面を漂つてゐる間に水はどんどん船底を浸し、バケツでかい出しながら二、三時間漂流すると水平線の彼方に雲のやうに島影が見えた『〇〇島だ』ボートのなかに歡聲が上つた風が出て來た、天佑の風だつた、船は一ぱい風を孕んで〇〇島に近づいてゆく『あと一息だ』やうやく〇〇沖附近に辿り着いたとき黒い影をみせて快速船が暮らにボートに近づいて來る、はるばる救援に駈けつけたわが海軍の〇〇艇だ、かくてわれわれは全部〇〇艇に移乘、他のボート三艘も相前後して發見され遭難以來十一時間目に〇〇に上陸、皆で無事の生還を喜び合つた、哈爾賓丸は病院船であり甲板上と舷側には赤十字の大きな標識が入つてをり敵の飛行機や潜水艦より襲撃を受ける心配はないと安心して航海してゐたのであるが、この敵の暴逆なる行爲は全く憎んでも餘りある、あの時無電が利いてゐたらきつと友軍の飛行機が救援に來てくれたらうと思ふと憤くてならなかつた

日本軍に心服

襦袢を與へた時には一同感泣

ウエーキ島俘虜横濱着

【横濱電話】去る二十三日帝國海軍の猛攻に潰えた米東亞進路の一據點ウエーキ島の俘虜カニンガム中佐以下千三百名が十八日〇〇艦で横濱に入港した前回のグアム島の俘虜に比べて約三倍の數であるさすがのヤンキーの顔にも深刻な表情が漲つてゐたが船中皇軍の武士道的取扱ひにいづれも感激、感

【寫眞】〇〇船上にて記者と會見する米捕虜(海軍省檢閲濟乙第一七號ノ二〇三)=電送

元氣でとくにわが方の親切の手厚い看護により船中で死亡したものは一人もなく負傷者も殆ど全快、今更ながら皇軍の威德に感激してゐた、彼等は服裝もまちまちで士官は大體制服を着てをり、その他は褐色のシャツのやうな水兵服を着てゐるものもあれば、青いナッパ服あり

背廣 ありでまた年齡も六十歳近いお爺さんから二十歳前の少年もゐる仕末、いづれも年齡の米人ばかりで始めのうちは船中でもヤンキーの個人主義を發揮し食事の際は上官の分も取合ふといふやうな無統制振りだつたが、艦船な訓練で次第に規律正しくなり今では食糧の配給も彼等自身でやつてゐるとのこと、輸送指揮官〇〇大尉、〇〇艦長、〇〇事務長、〇〇經理長などは船中における彼等の生活を次のやうに語つた

毎日彼等は六時半起床、九時床につく、初めは

澤庵 などは食へなかつたが、馴れ始めると美味しいくと貪り食つてゐる、榮養には充分注意し健康もこの通り元氣だ寢具類なども充分給與し、またとくに襦袢を支給した時は一同感泣してゐた、船中ではとくに彼等の個人主義を矯正することに力を盡し日本的訓練を施してゐるので、今ではよく日本軍に心服し斷然貌違へるやうになつた、始めは生命の不安があつたため、可成り

深刻 な表情をしてゐたが近頃はすつかり安心しきつて朗かさを取戻したやうだ、それと同時に戰況と家族に對する關心が増し、とくにニユースといへばすぐ集つて來る、レキシントン撃沈を知つた時はさすがに悲しさうな顔をしてゐた

お、マラツカが陷ちた

手を叩いて喜ぶマレー人や印度人

引張り凧の陣中新聞

【マレー戰線〇〇にて十七日同盟】シンガポールへ、シンガポールへと躍進と續く皇軍の大進擊は嬉しく半島を縱斷してをり、村もゴム林も沼水の畔もどんな山間僻地にも眩しいばかりの日章旗が翻つてこの大進擊を歡迎する、面白いのはマレー人、印度人、華僑など住民の物凄い戰爭熱だ

占領地各所 で發行される陣地新聞は直ちにマレー語、印度語、支那語に飜譯されて村から村へ配布されるが、これが大變な人氣である『おゝマラツカが陷ちた』『ジヨホールへ入つたぞ』とマレー人や印度人が手を叩いて自分のことのやうに喜ぶ風景が隨所に見られる『戰爭で仕事がないから前線へ連れて行つてくれないか』といふ、戰爭見物志願者が毎日のやうに二百人位現はれて兵隊さんを苦笑させる、どの顏も日本軍の強さに絶對的な信賴を置いてゐるのだ、治安維持などでは土地の有力者が色色と智慧を絞つて

皇軍協力案 を携へては部隊本部へ持込んで來る、多少有難迷惑な位の熱心さである、大きな都會では水道が復舊し電燈が灯され交通巡査が立つてゐる、假名を代へた商店が日章旗を掲げて賑やかに開店してゐる、日本軍の勇ましさが久しい間の屈辱と不本意な迎合に馴れた被壓迫民の胸に雄々しいものを呼び覺ましたか、どの街角にも建設の槌の音が土着民自身の手で高らかにも力強くあげられてゐる、印度兵の投降者が昨日と打つて變つた明るさで

交通整理に 立つたり、道路補修に當つたりして張りきつてゐるのも東亞人の東亞を米英の魔手から解放する大東亞戰なればこそだ、熱帶の天恩豐なこの大きな半島は長い間の桎梏から今や東亞のマレーに還つて來たのである

戰捷春場所大相撲

肥州、名寄に土

小松山、増位山の殊勳

八日目

西88―105東

松ノ里、鶴ケ嶺をうつちやる=電送

【東京特電】春場所八日目この日來賓若宮妃殿下、竹田宮恒德王殿下、李鍝公同妃各殿下には國技館に成らせられ土俵の熱戰を御興深く御熟覽遊ばされた、けふはカラリと日本晴れ観衆の盛況だ、西軍の勝歎肥州山、小松山の寄せ付けし物言ひがつき土俵上の協議となつたが小松山に勝名乘り、つゞく増位山、名寄岩の一戰土俵狹しの大相撲となつたが増位の鋭い突きに敗退東西兩横綱仲良く黒星をつけた、西横綱双葉山關の土俵双兒山關も揃々しい、西軍の大兵八方山にはたき込まれて敗退、仕度部屋に歸れば兄弟子双葉山はじめ皆から『あまり無理をするなよ』と同情が集まる、これに双見山『頑張りますよ』と一層張り切つて東軍の意氣をますます鼓舞する、大相撲も、十日となれば星のつぶしあひに全力十勝者の八日間を通じて未だ初白を出さぬは桂川たゞ一人、一敗は双葉山をはじめ羽黒、照國、若湊の四人、個人優勝の興味が俄然の卵を湧かす、八日目は西軍の反撃功を奏し二點を返し差十七點となる

(春)(場)(所) 九日目取組

中入後

東	西
若瀬川	松ノ里
駒ノ里	大熊
武藏山	磐石
富ノ山	大ノ森
佐ノ山	梶甲
増位山	神風
綾昇	若石
肥州山	小松山
八方山	龍王山
備州山	東ノ川
櫻錦	熊ケ嶽
旭川	鹿島洋
双見山	笠置山
名寄岩	九ケ錦
鯱ノ里	十三錦
羽黒山	玉ノ海
照國	九州山
双葉山	佐賀花
男女川	安藝海
二瀬川	大和錦
相模川	羽黒山

中入後

勝	決まり手	負
若瀬川	つり出し	矢筈山
鯱昇	つき出し	大ノ森
大熊	うちがけ	神風
駒ノ里	よりきり	若潮
龍王山	よりたふし	小戸岩
鯨ノ里	けたぐり	磐石
潮美川	上手投げ	備州山
綾昇	よりきり	神東山
若湊	よりきり	梶甲
鹿島洋	よりきり	清葉山
兩國	よりきり	清葉山
十三錦	おしだし	旭川
櫻錦	つきだし	桂川
松ノ里	うつちやり	鶴ケ嶺
八方山	叩きこみ	双見山
藤ノ川	より倒し	九州山
豐島	おし出し	二瀬川
松浦潟	下手投げ	大和錦
玉ノ海	下手ひねり	相模川
小松山	より仆し	肥州山
増位山	つき出し	名寄岩
安藝海	上手投げ	佐賀花
照國	より切り	出羽湊
双葉山	より切り	笠置山
羽黒山	より仆し	鹿奥里
男女川	つき落し	九ケ錦

得點 東 一〇五 西 八八

打出し四時二十五分

大相撲春場所星取表

東方	星取	西方	星取
双葉山	[illegible]	男女川	[illegible]
羽黒山	[illegible]	前田山	[illegible]
照國	[illegible]	安藝海	[illegible]
玉ノ海	[illegible]	五ツ島	[illegible]
名寄岩	[illegible]	肥州山	[illegible]
松浦潟	[illegible]	綾昇	[illegible]
佐賀花	[illegible]	出羽湊	[illegible]
二瀬川	[illegible]	相模川	[illegible]
九ケ錦	[illegible]	笠置山	[illegible]
双見山	[illegible]	九州山	[illegible]
鶴ケ嶺	[illegible]	豐島	[illegible]
小松山	[illegible]	櫻錦	[illegible]
清葉山	[illegible]	十三錦	[illegible]
藤ノ川	[illegible]	鹿島洋	[illegible]
備州山	[illegible]	神東山	[illegible]
磐石	[illegible]	増位山	[illegible]
旭川	[illegible]	大和錦	[illegible]
潮美川	[illegible]	四海波	[illegible]
若湊	[illegible]	鹿奥里	[illegible]
梶甲	[illegible]	若岩	[illegible]
小戸岩	[illegible]	駒ノ里	[illegible]
若潮	[illegible]	松ノ里	[illegible]
桂川	[illegible]	兩國	[illegible]
神風	[illegible]	大邱山	[illegible]
佐渡島	[illegible]	龍王山	[illegible]
鯱昇	[illegible]	八方山	[illegible]
若瀬川	[illegible]	綾若	[illegible]
得點	一〇五點	得點	八八點

商道は先づサービスから

食料品組合が店員指導講習會

戰時下われわれ商人の職域奉公は先づ質のよい店員を作り上げることだと京城飲食料品小賣商組合では新しい試みとして店員指導講習會を定期的に開催することになりその第一回が十八日午後一時半から府民館中講堂で開かれた、全府内から集つた店員諸君は八百餘名に上り、椅子が足りないといふ盛況ぶり、國民儀禮に次いで京城商工相談所長鈴木良一氏の『サービスのコツ』と題する實際に即した講演に移つた

『サービスを忘れた店員は自動販賣機にも劣る』とたーと矢繼ながらお客の顏を覗いし角型、長方型、隋圓型、丸型の種別から目、口、鼻の格構をユーモアたつぷりに説明、滿場の店主、店員諸君を笑はせながら顏をおぼえるコツ、客と應對する場合の目のつけ處手の動きどころなどを身ぶりで說授、さらにやはらかい表情で接しなくてはならないなど四十分間に亘り戰時下商人道ともいふべき講演があり、續いて京畿道特高課部から『經濟警察に就て』と題して店員の經濟警察に對する注意力を喚起、午後五時頃有意義な指導講演會の幕を閉ぢた

歌人協會から海軍へ

京城錦町一三朝鮮歌人協會では十八日午後一時から府民館日本間で會員卅餘名が集り愛國歌研究會を催したが、その席上で茶菓代を節約した金四十圓四十一錢を代表鎌田澤一郎氏が海軍武官府を訪れ獻兵金として差出した

ラジオ

十九日【月】

朝 六・三〇南洋圏の經濟(四)瀬田恒一▲七・二〇1國民の音樂 酒瀬一郎、2愛國詩「臣らの歌」山村聰▲九・〇〇朝鮮語講本莊榮▲一〇・〇〇幼兒の時間『オンガク』東京放送管絃樂團▲一〇・二〇(城)『二つの手紙』鈴川道子▲一一・〇〇ハナシアヒ「私ノウチ」東京市櫻川國民學校兒童

晝 正午1詩吟 原子志美堵外、2マンドリン合奏歌劇『タンホイザー』宮田マンドリン樂團▲一・

第二 六・三〇コドモの新聞、南洋の子供出世の大金』綿田ろ山

夜 六・〇〇1小國のシンプン 2大相撲春場所實況九日目(錄音)伏見盛翠 〇〇朗讀『ナチス女性の生活』(一)日高ゆりゑ▲一・二〇新しい生活の建設▲二・〇〇劇『楠木正成』東京放送研究會▲三・三〇(城二)戰時主婦の手帖(鮮語)▲四・〇〇『大東亞戰爭と教育』3小國民の時間▲六・三〇(城)澤田川常次郎▲八・〇〇1軍事發表、2三曲『六段調』ほか宮城道雄外▲九・〇〇講談『馬場辨(四)金島報道課員▲七・二〇戰場戰士の皆松本洋美▲七・三〇關印の今昔(二)松村紘一▲七・五〇戰時家庭菜園指導玄山清明▲八・〇〇『比律賓の今昔』張德秀▲八・二〇吹奏樂京城吹奏樂團▲八・四〇野談『政略』申鼎言▲九・二〇初步國語講座金永淳子▲一〇・〇〇(東)閉會

【ニユース】六・〇〇▲七・〇〇▲八・〇〇▲八・二〇(鮮語)▲一〇・〇〇▲一〇・二〇(鮮)▲正午▲〇・二〇(鮮)▲三・〇〇▲三・五〇(鮮)▲五・〇〇▲五・二〇(鮮)▲六・五〇(鮮)▲七・〇〇▲九・〇〇▲一〇・二〇(鮮)▲一一・〇〇

歌はぬ勝利【124】

山中峯太郎【作】　高木清【畫】

新生命（二）

――隆さんが來た。

と、公子は、急に胸さわぎして伯母さまの顔を、まともに見つめた。

澄子夫人も、隆の聲を知つてゐた。

――「小母さん」と大聲をあげて來るのは、隆のほかにはない。公子に會はせてくれるな、とあのやうに澄子から云はれてゐる隆……

と、思ふなり、公子に、

「あなた、お座敷の方へ行つていらつしやい。隆さんに會ふのは、お母さまの氣にいらないの、わかつてゐるでせう」

この時も、てきぱきと云はれて公子は一瞬、妙な顔をしたが――

と、思ふと立上つて、お座敷の方へスッと出て行くなり唐紙をしめてしまつた。

隆は、玄關へ上つて來てゐた。

「小母さん。をられんですか」

「はい、こゝにをります」

唐紙をへだてゝ公子の耳に、伯母さまの靜かなお聲が、この時も冴えて聞えた。

「やあ……」

隆の足音が大聲といつしよに、玄關から茶の間へ入つて來ると、

「遂にやつたです。これで日本の戰略がいよいよ明瞭にきまつた。肇國以來の大英斷です。敵が大きいだけに、張りばえがある。無論、國民は辛苦しなければならんが、この偉大な時代に生れてゐる樂しさは、どうですか、身を粉にしても御奉公しなければならん、それに小母さん……」

と、黙りこんだらしく、隆の聲が公子の耳に低く聞えて、

「七郎は生きとるですよ、たしかに」

「……」

伯母さまのお聲は、しかし、何とも聞えなかつた。

「生きとるです。私は昨夜、七郎の聲を、ありありと見たです」

「……」

伯母さまのハッとした氣はひを唐紙のすぐ外に立つてゐる公子はすぐそのまゝに感じた。

「かういふ夢です。七郎が武裝して舟の舳に立つてゐる。見おぼえのある軍刀を拔いてゐました。舟は波を蹴つて海上を驀進中です。たゞこれだけの夢ですが、しかし目がさめてみると、見た感じが、ほかの夢とはちがふ。非常に感じが深い。すきとほつてゐた、これは靈夢にちがひないと思つたです」

公子は聞きながら、ゾッと肌さむい感じがして、眞剣に耳をすました。

――不思議なことだわ、伯母さまと全く同じ夢を、隆も見てゐる。東京と逗子に離れてゐながら……

隆の聲が、いつになく、しんみりとつゞいて、

「これは七郎の魂が、今度の大戰に出征してゐるのを、私に知らせてくれたのだと、どうしても思はなければならない。さうぢやないですか、小母さん、七郎は生きてゐます。私は、神靈の責任を、神神の御加護を、今度こそ信ぜずにをれんです。實際に、大日本は神國なりです」

「隆さん……」

伯母さまの聲がつゝましくおちついて、

「ありがたう存じます。七郎は、やはり、お國のために……」

「さうです、たしかに、それでこそ七郎です。私は昨夜、その夢を見て、夜あけに目がさめるなり、日本の開戰を直感したです。ラジオで大本營の發表を聞くよりさきに、でなければ、七郎の魂が、出征を知らせて來る筈がない。しかも海軍の七郎が、武裝して海へ出て行つてゐる。これは確かに對米英開戰だと思つたです。私も、いよいよジッとしてをられん。志願して出て行きます。七郎のあとを追つて」

公子は、目の前の唐紙を引きあけた。